

常任委員会審査

総務厚生常任委員会

高鍋町職員の服務の宣誓に関する

条例の一部改正について

【内容】新たに町職員となった者の宣誓書への押印を不要とする所要の改正を行うもの。

◆総務課

問 公務員の服務の自覚を促すための宣誓ではないのか。

答 日本国憲法の尊重や全体の奉仕者として誠実に職務に就くことを固く誓うのが宣誓であり、日々の職の中で醸成させていく。

高鍋町交通指導員設置条例の制定について

【内容】令和2年4月に施行された会計年度任用職員制度により身分を移行したが、評価等に現状にそぐわない状況にあることから、非常勤特別職に近い有償ボランティアの身分に改めて移行するもの。

◆総務課

問 交通指導員による指導の日数はどれくらいか。

答 毎月0のつく日、春秋の交通安全週間、夜間無灯火指導、年末年始等の繁華街での指導など、年間60日から70日程度。

令和3年度

高鍋町一般会計補正予算(第8号)について

◆財政経営課

問 新たな本庁舎南側駐車場整備は、町民の意見を聞いた後でも遅くないのではないのか。

答 町道茂広毛平付・高岡線の工事で発生する山砂利の活用で300万円の節減となる。土地活用方法は今後検討し、今は暫定的に駐車場として利用する。

◆地域政策課

問 蚊口地区リノベーション地域づくりは駅舎整備のことか。

答 駅舎整備と直接の関係は無い。空き家対策等モデル地区や移住定住促進など地区の再生を目指す事業に、県市町村人口問題対策連携事業補助金を交付するもの。

◆総務課

問 職員自主研究グループの県外研修とは。

答 グループは町職員6名で構成され、スマートフォンでの方向性・政策について調査研究等を行う。環境整備や事業計画を立てるため、先進地の富山市で2か所の視察研修するもの。

◆税務課

問 固定資産評価航空写真データ取り込み業務委託とは。

答 県が出した航空写真を取り入れ、固定資産評価システムを最新化するもの。町独自に写真を手入する場合は、600万円から700万円の費用がかかる。

◆町民生活課

宮崎県環境整備公社の解散により残余財産返還金の歳入補正を行った。

◆福祉課

問 保育環境の消耗品購入の対象は。

答 保育所、幼保型連携認定こども園、地域型保育所が対象施設。対象外は幼稚園型認定こども園、放課後児童クラブ。

◆健康保険課

問 西都児湯医療センター夜間急病センターの利用人数は。

答 令和2年度は全体で1773人。高鍋町は145人、構成比8・178パーセント。新型コロナウイルスの影響により例年全体で300人以上だったが、極端に減少している。

常任委員会審査

文教産業建設常任委員会

高鍋町スポーツセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について

◆社会教育課

問 多目的ホールに冷暖房を設置したことで、これまでと利用目的は変わるのか。

答 改修前と利用団体は変わらないと思うが、用途のひとつとしては、災害時、総合体育館が避難所になった際、多目的ホールを体調不良者が使用することなども考えられるのではないか。

令和3年度

高鍋町一般会計補正予算(第8号)について

◆社会教育課

問 今回、日本遺産構成自治体に高鍋町が加わることとなったようだが、その経緯は。

答 今回の認定は、既存の日本遺産ストーリーの古墳群との対比により、宮崎平野の古墳文化の多様性を示す形で、本町からの働きかけと内容申請を行い、認定されたもの。

問 持田古墳群・高鍋大師等が日本遺産に認定されたことによるメリットは。

答 4つの古墳群で構成されているので、持田古墳群以外の古墳とも合わせてPRができ、観光客の誘致・町内外への認知度のアップなどが考えられる。

◆教育総務課

問 小中学校で使用するタブレットパソコンの保険加入状況は。

答 教員分はリース料に含まれている。生徒用は、国の補助金の関係上、町で加入する必要があるが、保険代が莫大になるため加入はせず、年次的に備品購入するなど検討する。

問 児童・生徒のタブレット使用について心配だが。

答 使用時以外は教室内の充電保管庫にあり、いつでも自由には使えず、授業中も教師の指示に基づき使用する。IDとパスワードも一台一台に割り振られており、使用上のルールについては、町教育委員会が作成し、学校で指導を徹底している。

◆農業政策課

問 コロナ対応で県から牛肉の提供があるようだが、調理内容は。

答 1人当たりの1回の提供量は、40グラムから65グラムを予定。メニューについては、1回目はハヤシライスを予定。

◆建設管理課

問 東光寺・鬼ヶ久保線について、補償基準の見直しとあるがどのようなものか。

答 予定の補償物件については、曳家工法で算定していたが、補償額の再算定を行ったと

ころ、補償額が大きく増額となり、再築工法についても比較したところ、再築工法のほうが安くなったので見直しを行った。

◆地域政策課

問 今回新しく着任した地域おこし協力隊員はどのような方か。

答 出身は宮崎県。東京からのUターンで、今後高鍋町の観光面のPRや、観光協会の蚊口ビーチハウスの計画などにも携わってもらう予定。



現地調査(高鍋防災ダム)